

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

学内外を対象とした入試説明会を春学期で2回開催、秋学期にも2回開催している。これらの説明会はホームページ上で案内することもあり、在校生のみではなく、学外生の参加も多くいる。大学院の学生に、院での生活や研究などについて具体的に話してもらう機会を作り、大学院入学に不安を持っている学部学生に大学院での生活をイメージできるような工夫をしている。入学者選抜の多様性については、2006年度入試からTOFEL、TOEIC、英検等の資格を有するものについては外国語試験を免除するなどの措置を取った。これにより外国語能力に優れた学生など多様な学生を確保することが期待できる。今後は学部学生が4年次から計画的に大学院での研究に向けた準備ができるよう、入試時期を早くする特別入試や大学院科目の一部履修などについて検討していく。

学内第三者評価

入試説明会を年に4回開き、入学者選抜方法もTOFELなどの点数によって外国語試験を免除するなどの工夫がなされている点は評価できる。学部生のための時期の早い特別入試や大学教育段階での大学院科目の一部履修の検討も進んでいる。

大学基礎データ表18を見ると、外国人留学生が前期課程に16人、後期課程に1人在籍しており、これについても何らかの記述があった方がよいのではないかと。

また、入学者の定員管理についての記述が必要である。2007年度は定員充足率が前期課程では40%、後期課程では30%と大きく定員を割り込んでいる点について、大学全体の指針が定まっていないため難しい点はあるが、現状の説明と自己評価を記しておく必要がある。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・上記の施策によって学外生からの入学が増加しているかとの質問があった。